

# 変えよう！冷たい県政

## — 県民の願いが届く県政へ —

いま、県民の暮らし、営業は大変です。ところが、石井県政は「行革」の名で、県民サービスを切り捨て、さらに、道州制の推進、「第3次おかやま夢づくりプラン」など、経済界の要求にそった施策をすすめようとしています。今こそ、「住民福祉の向上」をめざす県政へ流れを変えるときです。

「民主県政をつくるみんなの会」は、政治の転換を求める多くの県民との共同で、県政を変えるために、今年の県知事選挙をたたかいます。

今の  
県政

### 「行革」の名で 県民サービスに 背を向ける

### 生活が大変なとき、県民の予算を毎年100億円削減 くらし・医療・福祉の切りすて

#### ■国保料(税)の県負担金の削減

「国保料(税)を引き下げてほしい」—この願いは切実です。市町村では一般会計から繰り入れて、保険料(税)の値上げを押えるためにがんばっているのに、県は負担金を被保険者一人当たり93.2円(19年度)から32.6円(22年度)に引き下げる始末です。



#### ■障害者医療費を無料から1割負担に

1割負担導入からの5年間で予算は43億円も削減。一人当たりの負担額は約4,000円(広島800円)にもなり、受診抑制は19%にのぼっています。

#### ■県の施設利用料の有料化・値上げ

県庁、後楽園、運動公園などの駐車料金の有料化や、後楽園入場料無料(65歳以上)制度の廃止など。

#### ■滞納整理機構をつくり、徴税強化

### 防災、安全が大切なとき

### 県出先機関の統廃合



#### ■災害時に対応できない

地域に密着した9つの振興局が3つの県民局に統合。その結果、例えば、死者1人を出した2009年8月、台風9号の美作地域の災害の際(右の写真)、県職員は道案内人なしに被災地に行けないなど、災害時の機敏な対応に支障をきたしました。

#### ■生活道、河川整備が大きく遅れる

地域を熟知している職員が減り、県道の改修や河川整備が遅れ、県民の安全が脅かされる事態になりかねません。

### 地域が大変なとき

### 自治体合併ゴリ押し

78市町村が27市町村に  
全国トップクラスの合併

#### ■国保料や保育料などの値上げ

岡山市に合併した建部町では国保料が1.7倍に、御津町では介護保険料が1.8倍にも。

#### ■住民サービスもばっさり切り捨て

旧町で実施されていた、出産祝い金、老人会や各種団体への補助金、敬老祝い金、定住政策など、決め細かな住民サービスの多くが切り捨てられています。また、役場の職員が大幅に減り、地域を知らない職員の配置で、住民の声が届きにくくなっています。

### ムダづかい存続、その一方 地域経済に冷たい県政

苫田ダム・広域水道企業団の過剰な水源開発のために「余った水」の立替に毎年6億円も支出。一方、自宅改修に補助金を出すことで、仕事を増やし、地域経済の活性化につながる住宅リフォーム助成制度に県は背を向けています。この制度を実施している秋田県では、21.6億円の予算で520億円、24倍の経済波及効果をあげています。



### 県財政悪化の原因は・・・「オール与党」でムダづかい

景気の悪化による税収の減少とともに、国の交付税が2004年度以降、毎年350億円規模で削減されたことです。同時にチボリに400億円、吉備高原都市に1000億円超の税金を投入、岡山テルサに100億円投入しながら14年で更地にするなど、税金のムダづかいにあります。

こうしたムダづかいを自民、公明、民主など、日本共産党以外のすべての政党・会派がすすめてきました。自民、公明、民主などに応援される人では県民のくらしは守れません。

### 子どもと教育が大変なとき

### 教員の削減、非正規は2倍に

県下の小中学校教員の非正規の割合は、この10年間で、7.84%から15.4%と2倍にもなっています。岡山県の小・中・高の暴力行為と小学校の不登校の発生率は全国最悪。こうしたときだけに、教員を増やし、講師など非正規教員を正規にすることが必要です。

### 市町村の財政が大変なとき

### 自治体に負担を押しつける

#### ■水島サロンなど赤字の施設を市町村に譲渡

約1億円赤字の水島サロン、1億6千万円赤字のファーマーズマーケット(南北2箇所)、グリーンヒルズ津山などを押し付け、県の責任を放棄。

#### ■ゴミの広域化推進で、自治体に過大な負担押し付け

県は県内6ブロックに分けゴミ処理広域化計画を策定し、自治体に押し付けてきました。ところが、東備地域ゴミ処理施設は、「今の施設より処理費用で年間6千万円の負担増になる」(備前市)、「建設費だけで30億円もの負担になる」(瀬戸内市)など批判が相次ぎ、破たんしました。

### 名のりはあがっているが・・・

秋の県知事選挙にむけて、前天満屋社長の伊原木隆太氏と前県議の一井暁子氏が名乗りをあげています。隆太氏は「経営者としての経験を県政に」と語っています。彼の父で天満屋会長は、破たんしたチボリ公園の誘致をすすめた中心人物の一人。一井暁子氏は、民主党県議を突然辞任して知事選立候補を表明。民主党をはじめ支持する団体もなく、何のために立候補するのかもよくわかりません。これらの人たちに、今の「冷たい県政」を変えることができるのでしょうか？

### 大企業優遇、規制緩和 で、安全後回しの県政

5人の犠牲者を出したJX日鉱日石水島製油所海底トンネル事故。県は「総合特区」を推進、今回の事故も「特区」による規制緩和とコスト削減で起こったといっても過言ではありません。県の責任も重大です。

東日本大震災でコンビナート災害にあった千葉県では、今後の地震、液状化対策をいち早く強化。しかし、震度6弱といわれる水島コンビナートをかかえる岡山県は「国の動向をみて」と、安全後回しの姿勢です。



### 「民主県政をつくるみんなの会」の基本政策=「5つの転換」

- ①いのちと暮らし最優先への転換
- ②原発ゼロ、自然エネルギーへの転換、防災の街づくりへの転換
- ③地域に根ざした産業振興への転換
- ④教育の荒廃ストップへの転換
- ⑤道州制反対、地方自治拡充への転換

このチラシを各団体で討議していただくとともに、構成員のみなさんが読んでいただき、知事選挙をたたかう材料にしてください。

「民主県政をつくるみんなの会」  
〒700-0981 岡山市北区西島田町4-25  
2012年6月 ☎(086) 805-6171